

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第69号

[2015年1月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第69号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次>

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー



【メソト＝鈴木 みどり】

最近のメソット

皆様、新年あけましておめでとうございます。2015年もよろしく申し上げます。

時間が経つのは早いもので、メソットに来てから早くも6か月が過ぎようとしています。こちらの冬はとても過ごしやすく、イベントも多い時期です。もっと味わってゆっくり過ごしたかったのですが、慌ただしく過ぎてしまいました。

12月はカレン人の知人の結婚式もあり、メソットから離れた町ウンパン（Umphang）で過ごしたので、そこで感じたことについて書かせていただきます。

ウンパンは、メソットから南に約165km離れた山々に囲まれた街で、1219箇所のカーブを越えた先にあり、車で4～5時間かかります。ミャンマー国境までは約5kmで、近くにティロスーという有名な滝もある観光名所です。マーケットがあり賑わっていますが、自然が美しく、夜はとても静かです。メソットよりも寒く、夜は厚手のジャケットや毛布が必要になります。

この町に2泊して、同じ事務所で一緒に働いている女性のお姉さんの結婚式に参加しました。カレン族にはクリスチャンが多く、厳しい生活の中でも信仰を大切にしています。メソットからもたくさんの友人、知人が集まり、とても賑やかな式と食事会となりました。クリニックやCDC校の職員もたくさん参列していました。

翌日はウンパンの公立の学校を見学させていただきました。この学校では、生徒数は約1000人で、多くの子供たちが寄宿舎で月曜から金曜まで生活しています。ウンパンにはこの学校しか高校がないため、周辺の村やミャンマー国境を越えた村からも親元を離れて集まっています。

タイの学校も地方では決して豊かとはいえず、この学校も食料が不足していました。キッチンに残っていた野菜は一種類だけでした。タイの学校保健評価はタイの全ての学校に当てはめて考えることはできないと分かりました。しかし、学校の敷地の中で魚の養殖をしたり、野菜や果物を栽培して、生徒の食事に当てるなど工夫をしています。地域のボランティアが生徒の食事を助けています。また、学校の中にゲストハウスを作り、希望者が滞在して校内を見学できるようになっています。それが、寄付を集めることにもつながっており、新しい寄宿舎もできていて、寄附者の名前が掲げられていました。豊かな自然を生かして、学校をよくするように努力していると感じました。タイの学校がよく整備された畑や寄宿舎、トイレなどを見て、移民学校はタイの学校から学ぶべき部分があると感じました。

見学の途中で綺麗な歌声が聞こえてきました。休日でも生徒たちが発表に備えて歌の練習をしていました。発表で得たお金を学費に当てるために、学校で貯めているそうです。

以前、メソットで行われた音楽祭で、参加した団体に交通費以外、子ども達の演奏料など支払う必要はないと思っていました。日本ではそれが当たり前のことであり、学校の活動にお金を払うという習慣に抵抗がありました。しかし、この様子を見て、経済的に厳しい中で学校に行く努力を続けている子ども達への支援は、内容を確認した上で必要なら、日本とは違う形でも行って良いのではないかという気持ちになりました。タイ人の学校を見て、タ



イ人のことももっと知りたいと思うようになりました。

JAMは、直接タイの学校に支援することはありませんが、JAMが今後も支援していく移民達と深い関わりがあります。移民学校の子供達は、今年もタイの学校と一緒に演奏を行う予定です。今後も音楽活動が彼らの交流のきっかけになり、楽しい思い出にできたらいいなあと思います。



国内から

【東京=千々岩】

母乳育児

いつも JAM の活動にご賛同していただきありがとうございます。

HP の管理や更新などを行っている千々岩と申します。JAM のメンバーとなり早 5 年となりました。今は 1 歳 4 か月となる娘の育児の為に、イベントや定例会などに協力できず会員様やメンバーに迷惑をかけてしまい大変申し訳ないのですが、細く長く JAM の活動に協力でき本当に感謝しています。

この育児中に、2009 年度派遣された田辺医師(整形外科医)のブログ Borderless Border' s を読み返す機会がありました(現在、このブログは閉鎖されております)。



乳腺炎 (2009/6)
Case 8

25歳 女性

2ヶ月前に出産授乳中。

4日前より乳房の中央内側の熱感、腫脹、発赤あり。

穿刺吸引したところ白い液体(母乳?膿瘍?)が引ける。

乳輪から1cm尾側に約4cmの切開を施行。

上記と同様の液体および血液が大量に流出。

内部を洗浄。

クロキサシリン 1500mg 3×

パラセダモール (NSAIDS) 処方。

乳腺炎ってやつです。

授乳中に母乳の通る管が詰まって停留し感染を伴います。

こんな患者さんがたくさん外科病棟を訪れては

その場で切開されています。

もちろん滅菌状態での処置じゃないし

なにより表面麻酔だけだからめちゃくちゃ痛い!

普通のゴム手袋で中をぐるっとかき出し

イソジンガーゼを詰め込む。

お母さんは泣き叫ぶ。

腐った足には平気な私も

これには正直まいった。

——遠い記憶ではマッサージして授乳を促すとか言ってなかったっけ?

膿瘍が多いこの処置室では

赤く腫れていればまず切ってしまうのです。

メータオ・クリニック支援の会の助産師さんたちに聞いたら

適切な処置の仕方を丁寧に教えてくれました。

遠くにいても役に立ちたい気持ちはおんなじ。

いつも助けてもらって

心から感謝。

少しずつでも変えていければなあ。

育児をするまで乳腺炎を知らず、出産し望めば簡単に母乳育児ができると思っていた無知の私でした。こんな私も、日本だからこそ母乳育児を進めることができたと思っています。

私は産まれてくるまでは出産しか考えられず、その後にやってくる育児に関心を向ける余裕もないままに、娘は産まれました。

さて退院し、家で授乳しようとしてもうまくいくはずなく、娘は口を閉じたらなかなか開けてくれません。飲んでもらわないとすぐに母乳は溜り、張って痛み、飲んでくれない飲み方が悪いのかまた痛み、困り果てました。このままだと乳腺炎になるのではないかと不安でもありました。



すぐに、ネット通販で母乳育児の本数冊を買いこみ、ネットでも授乳の仕方を勉強し、先輩ママたちに相談したり、助産院の母乳マッサージへも通ったりしました。乳腺が詰まった時の対処法、乳腺炎になった時の自分でできる緊急処置などを学び、家ではタンポポコーヒーだけでなく、牛蒡子というびっくりするほど苦い和菓を煎じてみたり、ドイツのハーブティを取り寄せたり、カロリーの高いものを我慢し和食・和菓子の食事コントロールを心掛ける試行錯誤の毎日でした。しかし様々な手段をもって、母乳育児について知ることができたおかげで、母乳育児を楽しむことができました。

メータオ・クリニックでは、ミャンマーから産める場所を求めて母親がやってきて、年間3000人の赤ちゃんが誕生します。

ぜひこの日本の素晴らしい母乳育児の知識をメータオ・クリニックで広めて、多くの母親たちが正しい医療を受けることができ、そして母乳育児を楽しむことができると夢見ています。

編集後記

「ありがとうを出し惜しみすることはない」

先日、直木賞を受賞した西加奈子さんが会見で言っていた言葉です。

私は、特にひいきにしている作家さんなどはないのですが、この方の「漁港の肉子ちゃん」という本を偶然読んでから、いいなと思っていた作家さんでした。

「ありがとう」って思っている、ついつい照れくさくて言いそびれてしまうことってあるなあと思いつつ、西さんの会見を見て改めて「ありがとう」を積極的に出し惜しみせず、言っていこうと思いました。

ちなみに、漁港の肉子ちゃんは、表紙もタイトルもなかなか刺激的なので電車で読んでいたらチラと視線が痛かったですが、内容は読んだ後に心温まるすてきなお話です。

次号の予定

次号は、2月中～下旬ごろ配信の予定です。

ホームページは、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年

【学生会員】1,825円/年

【法人会員】36,500円/年



